

成人女性のキャリア意識に関する研究 (2)

父親が娘のキャリア意識の形成に与える影響

○小野寺敦子¹・畑 潮²

(¹ 目白大学・² エゴレジ研究所)

【目的】 父娘関係に関する研究は、母娘関係に比べ顕著に少ない現状にある。その中で小野寺(1984)、岩永・藤原(2009)、木川(2016)は、父親が女子大生の職業意識に与える影響について検討しているが、いずれも調査対象者はまだ就職していない女子学生であった。そこで本研究では、現在、就職し仕事についている30歳から59歳までの女性を対象にしたWeb調査を実施し、現在のキャリア意識や行動に父親の人間性や仕事に対する態度が与えている影響を明らかにすることを目的とした。

【方法】 (1) **調査対象者**：2017年3月にWeb調査を実施し30~59歳の有職女性522名(平均年齢=46.26歳, $SD=7.86$, 平均勤続年数15.3年, 父親が存命である人数330名, その父親の平均年齢74.0歳)から回答を得た。(2) **分析内容**：①キャリア意識尺度(安達1998及び山本1994から25項目)。②父親から娘への影響尺度：学生時代の頃の父親との関係や意識を尋ねた23項目を独自に作成した。

【結果と考察】 (1) キャリア意識尺度の22項目に因子分析(主因子法・promax回転)を行い5因子(「仕事充実感」「職場環境満足」「給与処遇満足」「職場の人間関係満足」「キャリア目標達成」)を抽出しそれぞれ合成得点を算出した(畑・小野寺(1)参照)。次にキャリアパターンを明らかにする目的で、これら5因子の合成得点を用いてK-means法によるクラスタ分析を行い5クラスタが得られた。これら5クラスタを独立変数、キャリア意識の5因子を従属変数とした一要因の分散分析を実施し全クラスタにおいて群の効果が0.1%水準で認められた。第1クラスタは全得点が低かったため「不満・無気力」型57名、第2クラスタは給与処遇得点は低い職場の人間関係と職場環境得点が高いため「職場環境重視」型107名とした。第3クラスタは全尺度の得点が平均的であったことから「まあまあ仕事満足」型155名、第4クラスタは全尺度得点が高かったため「キャリア満足」型87名、そして第5クラスタは仕事充実とキャリア目標達成得点が他の3尺度より高かったことから「目標達成」型56名と命名した。(2) 父親からの影響に関する23項目に因子分析(主因子法・promax回転)を実施し6因子を抽出した後、合成得点を算出した。第1因子「父親の人間性」因子 $\alpha=.91$ 、第2因子「父親の伝統的性役割観」因子 $\alpha=.87$ 、第3因子「父親への嫌悪感」因子 $\alpha=.88$ 、第4因子「両親の仲の良さ」因子 $\alpha=.85$ 、第5因子「仕事選択への助言」因子 $\alpha=.79$ 、第6因子「社会的関心育成」因子 $\alpha=.66$ と命名した。(3) 5つのキャリアパターンは父親から娘への影響6下位尺度によりどのように異なっているかを明らかにする目的で一要因の分散分析と多重比較を実施した(Fig.1)。その結果、キャリアパターンによって父親から娘への影響下位尺度得点で有意差がみられたのは「父親の人間性」(まあまあ満足・不満無気力<目標達成・職場環境重視・キャリア満足, F 値3.83, $p<.01$)「両親の仲の良さ」(まあまあ満足・不満無気力・目標達成<職業環境重視・キャリア満足, F 値4.63, $p<.001$)「仕事選択への助言」(不満無気力・職場環境重視<まあまあ満足<目標達成・キャリア満足, F 値4.24, $p<.01$)「社会的関心育成」(不満無気力<まあまあ満足・職場環境重視・目標達成・キャリア満足, F 値3.70, $p<.01$)においてであった。上記より現在仕事をしている女性のキャリアパターンが明らかにされ、そのキャリアパターンの形成過程に父親の人間性、両親の夫婦関係、父親からの仕事選択への助言および娘への社会的関心を育てる父親のかかわりが影響していることが示唆された。

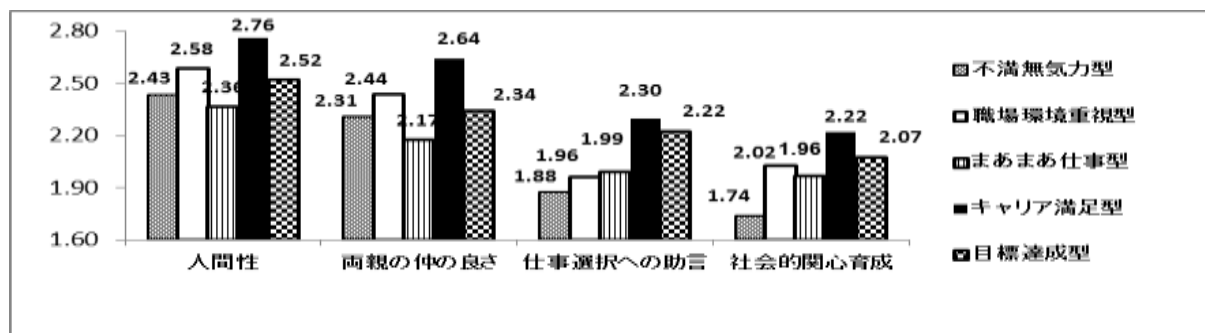


Fig.1 キャリアパターン別父親の影響